

# 公共交通 メールマガジン

令和2年  
3月24日発行  
第72号

編集：国土交通省  
総合政策局交通政策課



平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。  
今回は以下のラインナップでお送りいたします。



地域公共交通シンポジウム in 北海道

～地域を生かす『MaaS (Mobility as a Service)』の可能性～

(北海道運輸局)



第20回ビジネス講座

「自動運転の現状と今後の進展」～バスの実証運行から見えてくる課題と展望～

を開催しました！！

(関東運輸局)



「令和元年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました

(近畿運輸局)



地域公共交通セミナー～運転手確保に向けて～を開催しました！！

(沖縄総合事務局運輸部)



【のりたろう活動報告】今年のテーマは「のりたろう×MaaS」

さっぽろ雪まつりにのりたろうの雪像が登場しました！

(北海道運輸局)

#### <掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

**地域公共交通シンポジウム in 北海道**  
**～地域を生かす『MaaS (Mobility as a Service)』の可能性～**  
(北海道運輸局)

北海道は全国平均を上回るスピードで進行する人口減少、またこれに伴う公共交通サービスの利用者減少、運転者不足と相まってバスやタクシーのサービスの縮小が顕在化し、持続的かつ効率的な公共交通サービスの確保が喫緊の課題となっています。こうした中、この数年で MaaS (※) の導入に向けた取組が全国各地で実施されるようになりました。

そこで北海道運輸局は有識者からの講演等を通じて、地域公共交通が抱える課題等を解決に導く重要なツールの1つとして MaaS の可能性を皆様とともに探求するべく、令和2年2月4日(火)にシンポジウムを開催しました。自治体、交通事業者などさまざまな業界から、240名もの多くの方々にご参加をいただきました。

(※) MaaS (マース) …” Mobility as a Service ” の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念

第1部では、北海道大学の岸邦宏准教授による「MaaS に対して我々が取り組んでいくべきこと」と題した基調講演をいただき、続いて西日本鉄道株式会社都市開発事業本部まちづくり推進部緒方伸州課長より「持続可能な公共交通の実現のために～my route で出会う新しいルートとモビリティ」、WILLER 株式会社村瀬茂高代表取締役より「ひがし北海道における実証から得た MaaS の可能性」、マドラー株式会社成田智哉代表取締役より「MOBILITY MEETS COMMUNITY～地域のモビリティの可能性」と題した事例発表をいただきました。

第2部では、「地域を生かす『MaaS (Mobility as a Service)』の可能性」をテーマに、岸准教授をコーディネーターに迎えてパネルディスカッションを行いました。事例発表に引き続き緒方課長、村瀬代表取締役、成田代表取締役のほか、国土交通省総合政策局モビリティサービス推進課土田宏道企画官の計4名のパネリストにより、「地域を生かすために MaaS をどのように活用していくべきか」、「地域の関係者が果たすべき役割」について、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。

○シンポジウムの開催概要及び資料は、北海道運輸局HPに掲載しております。

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu/shin%20index.html>

[http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu/symposium20/index\\_shinpojiumu\\_hokkaido.html](http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu/symposium20/index_shinpojiumu_hokkaido.html)

## プログラム

### 【第1部】

- ・ 話題提供 『日本版 MaaS の推進に向けて』

国土交通省総合政策局モビリティサービス推進課 企画官 土田 宏道

- ・ 基調講演 『MaaS に対して我々が取り組んでいくべきこと』

北海道大学大学院工学研究院 准教授 岸 邦宏 氏

- ・事例発表①『持続可能な公共交通の実現のために～my route で出会う新しいルートとモビリティ』  
西日本鉄道株式会社都市開発事業本部まちづくり推進部 課長 緒方 伸州 氏
- ・事例発表②『ひがし北海道における実証から得た MaaS の可能性』  
WILLER 株式会社 代表取締役 村瀬 茂高 氏
- ・事例発表③『MOBILITY MEETS COMMUNITY～地域のモビリティの可能性』  
マドラー株式会社 代表取締役 成田 智哉 氏

## 【第2部】

- ・パネルディスカッション 「地域を生かす『MaaS (Mobility as a Service)』の可能性」

- ◆ 主催者挨拶  
北海道運輸局長  
大高 豪太



- 【第1部】
- ◆ 話題提供  
国土交通省総合政策局 モビリティサービス推進課  
企画官 土田 宏道



- ◆ 基調講演  
北海道大学大学院工学研究院  
准教授 岸 邦宏 氏



- ◆ 事例発表①  
西日本鉄道株式会社都市開発事業本部まちづくり推進部  
課長 緒方 伸州 氏



◆ 事例発表②

WILLER 株式会社

代表取締役 村瀬 茂高 氏



◆ 事例発表②

マドラー株式会社

代表取締役 成田 智哉 氏



【第2部】

◆ パネルディスカッション



◆ シンポジウム会場の様子



**第20回ビジネス講座**  
**「自動運転の現状と今後の進展」～バスの実証運行から見えてくる課題と展望～を  
開催しました！！**  
(関東運輸局)

関東運輸局交通政策部では、2017年10月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、公共交通・観光・物流・バリアフリー等、運輸局の業務に関係する題材をテーマに外部より講師を招いて公開講座を開催しています。

2020年度の7回目、通算20回目となる今回は、「自動運転の現状と今後の進展」～バスの実証運行から見えてくる課題と展望～と題し、まず関東運輸局自動車技術安全部長 高井 から取組報告を行わせて頂き、その後事例発表としてSBドライブ株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 佐治友基 氏、相鉄バス株式会社 企画・安全部長 本岡利之 氏、前橋市政策部 交通政策課 地域交通推進室 副主幹 南雲貞人 氏にご講演いただきました。



講演では、IT事業者、バス事業者、地方自治体それぞれの立場から「自動運転」について、実証運行の結果やそこから見えてきた課題、そして今後の見通し等をお話いただきました。共通したご意見として、実証運行時、乗車前には自動運転に不安を持っている方が多いそうですが、乗車後には不安が払拭されたという方も多く、受入れ気運の醸成に繋がっていると思われる、とのこと。また、自動運転には各方面から社会実装へ大きな期待が寄せられていますが、そのAI技術等を活用し、それぞれの立場に応じて、バスの運転手不足への対応だけでなく、運転手の負担軽減、安全性の向上、自家用車に過度に依存している住民の意識改革等を目指されているとのこと。

講演後は、交通政策部 松本次長が進行役となり、座談会形式で質疑応答を行いました。座談会ではどういった地域から「自動運転」が広がっていくと思うか、どのくらい時間がかかると思うか、車両だけでなくまちづくり（インフラ）の整備は必要か、実証実験の費用負担に関する考え方、5Gが利用できるようになった際のビジョン等、会場から寄せられた様々な質問に対して、丁寧に詳しくご回答いただきました。

今回のビジネス講座は、過去最高の参加人数となり、自動運転に対する関心の高さがうかがわれ、実証実験等を検討しているバス事業者や自治体にとって、非常に参考となる内容だったのではないかと思います。

<関東運輸局 ビジネス講座 URL>

[http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu\\_seisaku/business/index.html](http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/business/index.html)

当日の様子



## 「令和元年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました

(近畿運輸局)

令和2年1月31日(金)に、大阪歴史博物館(大阪府大阪市)において「令和元年度地域公共交通活性化シンポジウム in 関西」を開催しました。

本シンポジウムは、昨今の環境の変化に即し、「観光まちづくり」「MaaS」など幅広い取組の先行事例を参考に、これからの「交通とまちづくり」に関する諸課題の底を常に流れる、「住民生活を支え、地域を守るために、枠組みを超えた地域ぐるみでの協働」という考えを共有することの重要性を理解することを目的とするもので、地方自治体・交通事業者など220名を超える方々に参加いただきました。



会場の様子



開会挨拶  
近畿運輸局長 八木 一夫

### ○基調講演

#### 「公共交通の維持を目指した社会的インパクト評価の活用」

富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 准教授 猪井 博登氏

社会的インパクト評価について、公共交通における利用者の減少、運転手不足、企業経営の悪化、行政支援の限界などの現状をふまえ、事業者・行政・地域住民の連携強化により公共交通の持続可能性を高めることの必要性をはじめ、そのプロセスなどについても講演していただきました。そして、路線バスの維持存続に取り組んだ小豆島における適用事例についても紹介していただきました。



富山大学 猪井准教授

### ○事例紹介①

#### 「町内の大学や隣接自治体との連携による地域公共交通対策」

兵庫県福崎町 まちづくり課 都市計画係長 藤田 裕文氏

福崎町の藤田係長からは、市町村有償運送に持ち込み車両の使用が認められたことにより交通空白時間に大学の所有するバスを活用した事例、隣接する町と連携しコミバスの運行を開始し両町の交流を拡大した事例のほか、交通空白地域の解消、工業団地への公共交通による通勤手段の確保といった課題に対する取組事例を紹介していただきました。



福崎町 藤田係長

## ○事例紹介②

「大津市版自動運転+MaaS 実証実験を通じた官民「OneTeam」での地域活性化への挑戦」

大津市 未来まちづくり部 交通戦略室 主任 長谷川 祐介 氏

「次世代モビリティ 2020 年実用化を目指した取り組み」

京阪バス株式会社 ICT 推進部 主任 大久保 園明 氏

大津市の長谷川主任と京阪バスの大久保主任からは、昨秋に実施された産官学の連携による自動運転・観光地型 MaaS の実証実験の結果をふまえた上で、周辺施設での利用が可能なクーポン券を MaaS アプリ上で発行した事例から、利用者の移動状況と購買状況の把握・分析を通じた地域協力体制の構築につながった効果を紹介していただきました。また、自動運転における課題や、事業の黒字化に必要な MaaS による利用促進・付加価値等、今後の事業化を見据えた取組についても講演していただきました。



大津市 長谷川主任



京阪バス 大久保主任

## ○事例紹介③

「外国人観光客も利用しやすい二次交通の実現に向けて」

和歌山県 商工観光労働部 観光局 観光交流課 主査 古川 龍二 氏

株式会社ヤタガラスプロジェクト 代表取締役 池田 大志 氏

和歌山県の古川主査と株式会社ヤタガラスプロジェクトの池田代表からは、外国人観光客が増加している熊野地域において、共通路線図の整備、バス停掲示情報の整備、乗換え交通拠点の整備、バス停名称の統一、バス車内の案内情報の充実、オープンデータ化の推進、多言語 Web サイトによる情報発信など、観光二次交通の利用環境が整備された事例を具体的に紹介していただきました。



和歌山県 古川主査（左）  
ヤタガラスプロジェクト 池田代表（右）

## ○質疑応答

質疑応答では、事前に参加者からいただいた質問に対して、猪井先生の司会のもと、各講演者から回答をいただきました。

近畿運輸局では、日々、地域公共交通の活性化に頑張る自治体・事業者・住民の皆さまの取組の参考にして頂くため、今後も学識経験者の方の講演や、幅広く全国の先進事例を紹介する場を設けてまいりますので、多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

※シンポジウム講演資料については、近畿運輸局ホームページに掲載しております。

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kinki/kansai/program/symposium2019.html>

## 地域公共交通セミナー～運転手確保に向けて～を開催しました！！

(沖縄総合事務局運輸部)

運転手不足によるバスの減便、路線の縮小、そんな報道を最近よく目にするようになりました。沖縄も例外ではありません。そこで沖縄総合事務局運輸部では、昨今の運転手不足に対応するための「採用戦略」「採用後の定着」等をポイントに、令和2年1月27日(月)に令和元年度地域公共交通セミナー～運転手確保に向けて～を開催しました！

本セミナーの講師として、ファンシップ株式会社代表取締役の小宮 仁至 氏ならびにリッツ MC 株式会社代表取締役の中嶋 美恵 氏をお招きしご講演いただきました。当日は運輸事業者の採用担当者をはじめとする約40名の参加者で会場は満員！皆さま真剣な表情で耳を傾けていました。



開会挨拶の様子

運輸部企画室長 三宅亮



セミナー講演Ⅰの様子

### ◆セミナー講演Ⅰ「採用改革セミナー」◆

ファンシップ株式会社代表取締役 小宮 仁至 氏

小宮氏の講演は採用活動を“レンアイ(恋愛)”に置き換えて考える「レンアイ型採用改革講座」！！

採用活動で直面する様々な状況や解決のヒントを、レンアイに置き換えながら楽しく分かりやすく説明いただき、あっという間の120分！採用活動における悩みや行き詰まりも”レンアイ”の視点を取り入れることで道が開けてくる、今までにない新たなアプローチでまさに採用改革！なセミナーとなりました。

### ◆セミナー講演Ⅱ「運転者の採用と定着のポイント」◆

リッツ MC 株式会社代表取締役社長 中嶋 美恵 氏

中嶋氏の講演ではバス業界に特化した採用のポイント、採用市場の現状や流行などを分かりやすく説明していただきました。日本最大級のバス運転者専門求人サイト「バスドライバーnavi(どらなび)」を運営するリッツ MC 株式会社、説得力が違います。女性運転者の採用にあたってのポイントも多く盛り込まれ、一言も聞き漏らせない充実した70分のセミナーとなりました。



セミナー講演Ⅱの様子



また、沖縄総合事務局運輸部では運転手の確保に向けて、県内在住者だけでなく、県外在住のIターン、Uターン希望者にも訴求した採用ポータルサイトを開設しました。

現在、沖縄本島の主要な路線を運行している4事業者の情報や実際に沖縄へ移住してバスの運転手として勤務している方へのインタビュー記事などを掲載しています。順次、宮古島、石垣島なども含めた路線バス事業者の情報も掲載予定です。

( URL ⇒ <https://bus-life.okinawa/> )

**【のりたろう活動報告】今年のテーマは「のりたろう×MaaS」  
さっぽろ雪まつりにのりたろうの雪像が登場しました！（北海道運輸局）**

令和2年2月4日（火）～2月11日（火）に開催された第71回さっぽろ雪まつりで、北海道運輸局ののりたろう雪像プロジェクトチームが、高倍率の抽選をくぐり抜け、1月29日から、公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」の雪像製作に挑みました。

製作初日、鍬入れ式ならぬケレン棒式を執り行い、製作作業スタートです。残念ながら小雨の降る中の作業となりましたが、雪の塊は削りやすく順調な滑り出しとなりました。



鍬入れ式ならぬケレン棒式



のりたろうの形に削っていきます



細かい部分を作業中。完成間近！

雪像製作は今年で3年連続3回目ということで、のりたろうの雪像デザインは昨年よりも大胆に変更されました。のりたろうにも MaaS の波が訪れ手にはスマホを、後ろには MaaS アプリによる公共交通のサイクルを背負っています。その結果・・・人気投票では残念ながら入賞とはなりませんでしたが、より最新ののりたろうを表現できたのではと思っております。

準備期間中はこの時期には珍しく気温が高く雪祭り開催も危ぶまれるほどの暖冬でしたが、雪祭り開催後一転して大雪が降り、ようやく北海道らしい光景となりました。のりたろう雪像は完成して1日と待たず雪に覆われる結果になりましたが、気温も下がったおかげでとけることはなく無事に最終日を迎えることができました。

開催期間中、多くの方がのりたろう雪像に会いに来てくださいました。のりたろうをきっかけに公共交通・MaaS の利用促進に関心を持って頂ければ幸いです。

第72回さっぽろ雪まつりへの来場も「公共交通にのろう！」



のりたろうの雪像が完成！



のりたろうも一緒に記念撮影

## < 掲 示 板 >

### ☆ 地域公共交通支援センター

交通政策課では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

### ☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

#### 公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので 100 歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて 1 名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

#### 【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局交通政策課 梅澤  
〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8986（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: [hqt-koutsuseisaku\\_joho@gxb.mlit.go.jp](mailto:hqt-koutsuseisaku_joho@gxb.mlit.go.jp)

#### ★国土交通省HP（情報発信のページ）

[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei\\_transport\\_tk\\_000039.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html)

